



「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」



(社)山口県薬剤師会
学校薬剤師部会長

西村 正 広

平成9年に薬物乱用対策推進本部が設置され、薬物乱用防止五か年戦略が開始されて以来、すでに10年が経過し、平成20年8月22日に第三次薬物乱用防止五か年戦略が発表され、新たな取り組みが開始されました。第三次薬物乱用防止五か年戦略は、内閣府ホームページに掲載されています。

<http://www8.cao.go.jp/souki/drug.html>

戦略目標に以下の4つを設定しています。

- 目標1…青少年による薬物乱用の根絶及び薬物乱用を拒絶する規範意識の向上
- 目標2…薬物依存・中毒者の治療・社会復帰の支援及びその家族への支援の充実強化による再乱用防止の推進
- 目標3…薬物密売組織の壊滅及び末端乱用者に対する取締りの徹底
- 目標4…薬物密輸阻止に向けた水際対策の徹底、国際的な連携・協力の推進

我々学校薬剤師は目標1の中で次のように記載されています。

「すべての中学校・高等学校において、少なくとも年1回の薬物乱用防止教室を開催するよう指導すること。その際、警察職員、麻薬取締官OB、学校薬剤師等の協力を得つつその指導の一層の充実を図る」。(警察庁、財務省、文部

科学省、厚生労働省)

これを受け、「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」を開催しています。平成20年度の山口県の実施結果は、小学校57.9% 中学校75.1% 高校100%でした。中学校が目標に達成できませんでした。薬物乱用防止指導員とは山口県においては学校薬剤師が委嘱されています。他に薬物乱用防止推進員がいます。詳しくは山口県学校薬剤師会ホームページQ & Aをご参照下さい。<http://www.yama-yaku.or.jp/gakuyaku/Q&A/Q&A.htm>

実施者は高校では警察職員が多いですが、小学校では学校薬剤師が多い傾向にあります。

芸能界で、覚せい剤や大麻及びMDMA事犯の報道がされていますが、覚せい剤事犯の検挙人員は、平成20年は11,231人と前年に比べ減少しましたが、依然として全薬物犯罪の約80%を占め、第3次覚せい剤乱用期が継続しています。

いっぽう、大麻事犯の検挙人員は2,867人と過去最高を記録しました。また、MDMA事犯の検挙人員のうち、未成年と20歳代の青少年層が占める割合が、約90%です。覚せい剤の場合とは逆に、薬物に好奇心を抱き始めた若者が容易に入手できる事が原因になっていると思います。これからも「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」が青少年の薬物使用に歯止めをかけることを信じて、啓発活動をおこなっていきたいと思います。

「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」で、薬剤師のパワーを示しましょう。

	学校数	実施率 (%)	警察職員	薬乱指導員	保健所職員	その他
小学校	330	57.9	81	105	25	18
中学校	173	75.1	93	36	17	11
高校等	87	100	113	20	5	7
合計	590	69.2	287	161	47	36

(実施者の数字は延べ人員) 薬乱指導員：薬物乱用防止指導員